

## 5.CSR経営の推進

当社では、生命保険会社の社会的責任を果たすべく、CSR(企業の社会的責任)の視点で改めて事業活動を点検し、改善することにより、お客さまから信頼され、選ばれる会社を目指してまいります。

ディスクロージャー資料「三井生命の現状」では、当社のCSR活動の幅広い取組みの中から、環境保護活動と社会貢献活動を中心にご紹介いたします。

### 三井生命のCSR

当社は生命保険という長期にわたる保障を提供しています。未来永劫、途切れることなく、十分なサービスをお客さまに提供し続けることが当社における最も重要なCSRであり、そのために、これからも三井生命に関わるステークホルダーに対する責任を果たしていきます。

#### CSRの定義

当社は以下のようにCSRを定義しています。このようなCSRの視点から事業活動を行うことで、営業・サービスの品質や従業員のモチベーション向上、ひいては企業価値の向上と社会の健全な発展の両立を目指します。

当社の存立基盤である社会の健全な発展に好影響をもたらす企業活動を推進すること。

#### CSR経営宣言

当社では、「CSR経営宣言」に従って当社が取り組むべき課題を選定・遂行して、ステークホルダーの皆さまに対する責任を果たしていきます。

三井生命は、経営理念の下、社会の一員として持続的な発展を目指し、以下のとおり企業経営を進めます。

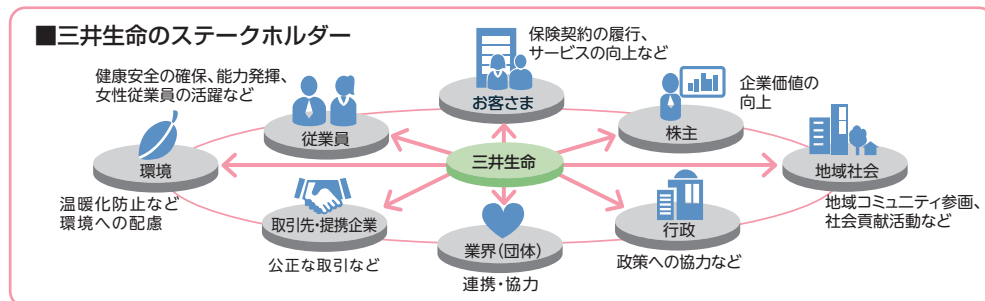
- 役職員一人ひとりが企業人としての自覚と責任を持ち、法令・社会規範の遵守、適切なリスク管理、適時適切な情報開示を通じて、社会の信頼に応える公正・透明な企業経営を行います。
- お客さまの「安心」を長期にわたって支えるため、お客さまの視点に立った商品やサービスを提供する不断の努力を続け、お客さま満足の向上を追求します。
- 株主の期待と信頼に応えるため、安定的、持続的な企業価値の向上と適切な利益還元を実現します。
- 従業員の人權、人格、多様性に配慮し、自己成長を含む能力開発や仕事と生活の調和を通じて、誇りとチャレンジ意欲を持って能力を発揮できる職場環境の構築と社会生活の安定向上に努めます。
- 事業の礎となる社会の発展に寄与し、次の世代にも豊かな地球環境や安全・安心に暮らせる健全な社会を引き継げるよう、継続的な取組を行います。

### 三井生命のCSR三本柱

少子高齢化、地球環境問題など、社会のさまざまな課題の解決に向けて日々行動を重ねていくことが、生命保険会社としての社会的責任であると認識しています。当社は、これらの課題を、社会的課題の普遍性、本業との関わり方の深さ、貢献の可能性によって整理し、「社会・環境」「いのちと健康」「人の生活の安心」の3つの重要領域をCSR三本柱として定め、活動を展開しています。

### 三井生命を取り巻くステークホルダー

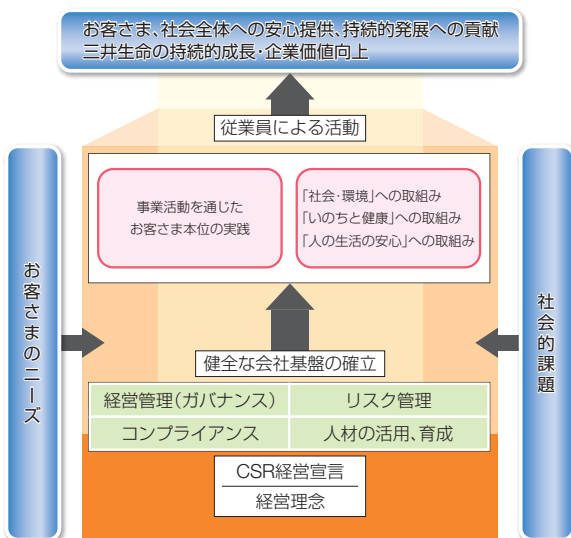
当社では、お客さま、株主、従業員、そして、それらを取り巻く社会全体をステークホルダーとしてとらえています。株式会社である当社は、株主からの出資によって事業基盤が形作られていることは言うまでもありませんが、それだけでなく、生命保険会社として、持続的かつ安定的な事業を実現するために、お客さまとの保険契約が長期間にわたり維持されることが必要不可欠です。保険契約の維持、つまり、お客さまの満足度やお客さまとの信頼関係を維持するために、当社は、社会全体の健全な発展への貢献を目指します。



## CSR活動の展開

お客さまや社会から信頼される生命保険会社であるためには、ガバナンスやリスク管理、コンプライアンスの強化などを通じた健全な経営基盤の確立が前提となります。

これらの経営基盤に基づき、よりよい商品・サービスの提供によってお客さまのニーズに応えていきます。さらには生命保険という事業特性をいかながら、CSR活動を通じてさまざまな社会的課題の解決に取り組みます。このような活動を通じて、安心・安全で持続可能な社会の発展に貢献し、その結果として当社自身も持続的成長を遂げることを目指します。



## CSR活動一覧

企業の社会的責任に関する要請が高まる中、CSR経営宣言を掲げる当社では、昨年度の実施内容や課題を踏まえ、「平成28年度CSR活動一覧」を策定し、さらなるCSR活動の発展に取り組んでいます。

カテゴリ	平成27年度活動内容	平成28年度活動一覧
当社のCSR三本柱	<b>「社会・環境」への取組み</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シークレットポストによる資源の再利用</li> <li>・クールビズ、空調温度設定等による節電実施</li> <li>・苗木プレゼントを実施</li> <li>・本社・支社での地域活動への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境対応（CO<sub>2</sub>削減への取組み）</li> <li>・緑化運動の推進（苗木プレゼント）</li> <li>・活動拠点を中心とした地域活動への参加</li> </ul>
	<b>「いのちと健康」への取組み</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・難病・特定疾患患者会の支援</li> <li>・公益財団法人 三井生命厚生財団への寄付を通じた医学研究助成</li> <li>・企業献血の実施</li> <li>・乳がんの早期発見に資する活動推進</li> <li>・ピンクリボンフェスティバルへの協賛・参加</li> <li>・社内食堂でのTFT<sup>※2</sup>メニュー販売を通じた発達途上国への給食費の寄付</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難病・特定疾患<sup>※1</sup>に関する研究など、医療関連基礎研究・支援団体への助成</li> <li>・乳がん検診受診啓発運動（ピンクリボン運動）</li> <li>—</li> </ul>
	<b>「人の生活の安心」への取組み</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや障がいのある方を支援する「ふれあいトリオ」への協賛</li> <li>・経済的事情により手術を受けられない子どもを支援する「明美ちゃん基金」への寄付</li> <li>・全社防犯運動、オレンジリボン運動への参加</li> <li>・女性活躍推進法に基づく行動計画策定</li> <li>・早帰りデー運行強化</li> <li>・チャレンジの場の拡大による、モチベーション向上・従業員の成長を企図した人事制度改定</li> <li>・社内外における研修等教育企画の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや障がいのある方への支援</li> <li>・ダイバーシティの推進（早帰りデー徹底などの「働き方変革」の実現等）</li> <li>・従業員の育成</li> </ul>
経営のコミットメントを軸としたPDCAの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度の活動状況報告実施</li> <li>・電子版社内報にてCSR意識浸透のため関連活動を紹介</li> <li>・活動内容の検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動一覧の策定、PDCA実施</li> <li>・CSR意識浸透策の実施</li> <li>—</li> </ul>

※1：当社は、厚生労働省より特定疾患に指定されているIBD（炎症性腸疾患）患者に、一定条件のもと生命保険を提供しています。  
 ※2：TFTとは、TABLE FOR TWOの略称です。

## 環境保護活動

こわさないでください。  
自然。愛。いのち。

社会の一員として地域の環境保全に貢献するとともに、良好な地球環境を次世代に引き継ぐため、「環境配慮に関する基本方針」を定め、環境保護活動を行っています。

### 環境配慮に関する基本方針

三井生命は、社会の持続的成長を企図し、経営理念に掲げる「国民生活の福祉向上」に寄与するため、環境問題が地球規模かつ次世代以降にわたる重要な課題であることを強く認識し、環境保護に配慮した経営を推進します。

#### 1.地球環境保護に配慮した事業活動

環境関連のルールを遵守し、常に地球環境保護に配慮した事業活動を行います。

#### 2.資源・エネルギーの有効活用

限られた資源を有効に活用するため、省資源、省エネルギーおよび資源のリサイクルに取り組み、環境負荷の低減に努めます。

#### 3.環境啓発活動の推進

全従業員の環境問題への意識向上に努め、一人ひとりの社内外での行動が環境保護に繋がるように努めます。

#### 4.環境問題への継続的な取り組み

効果的な地球環境保護につなげるため、必要に応じて取り組みの見直しを行い、長期にわたり継続的に取り組みます。

### 苗木プレゼント

当社は、「緑・自然を守り、親から子へと美しい緑の街を伝えたい」という願いを込めて、昭和49年に「苗木プレゼント」を開始しました。これは、当社が常に訴え続けてきたキャンペーンテーマ「こわさないでください。自然。愛。いのち。」を言葉で終わらせることなく、CSR活動の一環として形で表現したものです。全国の企業、公共団体、学校、病院などの団体及び一般家庭に対して、気候や生育条件にあった苗木を配布し続け、平成27年度で42回目を迎えました。これまでに贈呈した苗木の本数は累計で498万本になりました。苗木は全国各地ですくすくと育ち、心地よい木陰をつくりながら周辺環境の保護やCO<sub>2</sub>削減等に役立っています。



第1回プレゼントの際に植樹した苗木

### シークレットポストシステム

個人情報・機密情報などの書類を専用箱(シークレットポスト)で回収し、梱包したまま製紙工場などで溶解処理し、トイレトペーパーなどに再生産しています。この取り組みにより情報漏えいを防ぐとともに、資源の有効活用(本社ビルで再利用)を行っています。平成16年度以降累計で、直径14cm・高さ8mの木29万4千本相当を伐採から守ったこととなります。

## 社会貢献活動

社会の一員として豊かな社会の実現に貢献するとともに、将来を担う子どもたちの健全な育成に貢献するため、「社会貢献活動に関する基本方針」を定め、社会貢献活動を行っています。

### 社会貢献活動に関する基本方針

三井生命は、経営理念に基づき、生命保険事業を通じて国民生活の福祉向上に努めるとともに、良き企業市民として豊かな社会の実現に貢献します。

1. 自らが社会の一員であることを意識し、社会の健全かつ持続的成長に貢献するため、「こわさないください。自然。愛。いのち。」をテーマに活動を推進・支援します。
2. 社会や地域との調和を図りながら、役職員一人ひとりの行動が社会の発展に寄与するよう努めます。
3. より良い社会づくりに貢献できるよう、社会の要請を踏まえつつ、公共性の高い活動に継続して取り組めます。

### 公益財団法人三井生命厚生財団

三井生命厚生財団は、国民の健康保持とその増進をはかり、社会公共の福祉に貢献することを目的として昭和42年に設立されました。この目的に沿い、今日のわが国の健康上の重要課題である生活習慣病に関連する医学研究助成事業等を設立以来一貫して行っています。



医学研究助成・医学研究特別助成 贈呈式

### 医学研究助成

第48回「医学研究助成」(平成27年度)は、全国の大学・研究機関の研究者を対象に公募を行い、20研究に対して助成を行いました。また、第46回「医学研究助成」(平成25年度)入選者の研究報告の中から、3研究を第24回「医学研究特別助成」としました。

#### 《助成金の実績》

	平成27年度		累 計	
	件 数	助成金額	件 数	助成金額
医学研究助成	20件	2,000万円	918件	10億7,700万円
特 別 助 成	3件	450万円	87件	1億350万円
合 計	23件	2,450万円	1,005件	11億8,050万円

#### 《研究課題》

平成27年度	平成28年度
① 主幹脳動脈狭窄の治療 ② 過活動膀胱 ③ C型肝炎の新しい薬物治療の成績 ④ 脂肪性肝炎に起因する肝臓の切除成績	① 骨粗鬆症の新しい治療 ② 特定健診の評価 ③ 認知症の周辺症状への対応 ④ 鏡視下手術死亡の検討と対策

### 健康増進啓蒙活動

平成27年度に生活習慣病の予防・啓蒙を目的とした一般参加型の講演会を当社と共同で6回開催し、参加者数は合計で290名に達しました。

## ピンクリボン運動



ピンクリボンフェスティバル2015(スマイルウオーク東京大会)の様子  
(写真提供:日本対がん協会)

日本では現在、女性の12人に1人が乳がんにかかると言われていますが、乳がん検診受診率はまだ低い状況です。そうした背景の中、乳がんの早期発見啓発を行う運動がピンクリボン運動です。

当社は、生命・健康と密接な関係を持つ生命保険業を本業とする会社として、また、女性従業員の割合が高い企業として、ピンクリボン運動の趣旨に賛同し、この運動に参画しています。具体的には、多くの方に乳がんの早期発見の大切さを伝える「ピンクリボンフェスティバル」(公益財団法人日本対がん協会など主催)への協賛、乳がんセミナーの実施、チラシなどを用いたお客さま・地域の方々への乳がんについての情報提供や啓発活動などを行っています。

## 全社防犯運動



「地域の目カード」

犯罪の多発を背景に、地域社会では住民を中心とした防犯の協力体制が期待されています。全国の当社従業員は営業活動中に、「地域の安全を見守ります。」と記した「地域の目カード」を携帯し、あるいはステッカーを車に貼り付けるなど、犯罪抑止の一翼を担った活動を行っています。営業店舗では、「こども110番シート」を貼り、児童の緊急避難先として機能しています。

## オレンジリボン運動

近年、子どもが虐待を受け、命を失ってしまうという事件が年間50件近く起きています。また、虐待を受け、苦しんでいる子ども達もどんどん増え続けています。そうした背景の中、オレンジリボン運動は、「子ども虐待のない社会の実現」を目指し、平成17年から始まった市民運動です。当社は平成20年度より、「子どもの虐待防止 オレンジリボン運動」に取り組んでいます。

## 明美ちゃん基金

先天性心臓病などに苦しみながら経済的な事情で手術を受けることができない子どもたちを救うため、昭和41年に設立されました。40年以上にわたり100人を超える国内外の幼い命を救い、“愛といのちのバトンタッチ”という大きな善意の橋渡し役として成長し、現在では発展途上国の医療活動や研究活動にも適用を拡大しています。当社は平成6年から22年連続で寄付を続けています。

## 寄附講座の開講



授業風景

学校教育における個人の「金融」に関する知識教育を支援するため、平成16年度より大学における寄附講座を実施しています。青山学院大学では平成17年度より継続して寄附講座「パーソナル・マネー・マネジメント入門講座—大学生のためのマネー・金融・経済の基礎知識—」を設けています。講義にあたっては当社のファイナンシャル・アドバイザー経験者等の専門家が非常勤講師として教鞭を執り、パーソナルファイナンス(世帯の家計)の視点から解説し、マネー・経済・金融に関する基本的な知識の習得を目指す内容となっています。

## ミシガン大学ロス・ビジネススクール「三井生命金融研究センター」

平成2年9月、当社の寄付により、ミシガン大学(米国ミシガン州アナーバー)内の研究機関として創立されました。環太平洋地域(アジア・アメリカ)の金融資本市場の発展のため、金融に関する研究論文シリーズの刊行を行うとともに、金融を巡るタイムリーなテーマについて、日米で定期的なシンポジウムを開催しています。また、研究費用の助成や博士課程の学生への奨学金(平成27年度は、35,507ドル)も給付しています。

## ふれあいトリオへの協賛



子どもたちにヴァイオリンを教える吉田恭子さん

当社は、一流アーティストの生のクラシック演奏を子どもたちに届け、豊かな心と感性を育んでもらいたいという思いから、公益財団法人日本青少年文化センター主催の「ふれあいトリオ～吉田恭子と仲間たち～」に協賛しています。この活動は平成15年の開始以来、その数は全国各地で400公演を超えています。

### チャリティコンサート支援

当社は炎のマエストロで知られる世界的指揮者・小林研一郎氏がスペシャルオリンピックスの主旨に賛同して設立された「コバケンとその仲間たちオーケストラ」の皆さまに、本店17階「三井生命ホール」をリハーサル会場の提供という形で応援を続けています。

このオーケストラは、知的発達障がいのある方々をお招きして生の演奏を楽しんでいただくためにボランティアコンサートを行っています。様々な障がいのある方も健常者も同じ空間と時を共有し同じ喜びを享受して、共に生きていける社会の実現を願って活動されています。

### 子育てサポート企業として認定

当社は、従業員の仕事と子育ての両立を推し進め、より働きやすい就業環境の整備に取り組んでまいりましたが、次世代育成支援対策推進法に基づいて策定した行動計画への取組みを実施した結果、育児における柔軟な勤務制度の導入等により、子育て支援のための取組みが評価され、平成22年5月、厚生労働大臣より次世代認定マーク(愛称:くるみん)を取得しました。

